

# 長岡京市の歴史を彩った 人物・史跡のガイドマップ



**カメラポイント**  
眺望スポット。又は記念撮影が楽しめるポイントです。

**おみやげ処**  
特産のたけのこを使った名産品等を販売しています。

**バリアフリートイレ**  
散策地近くのバリアフリートイレ設置場所です。

●イラストマップにつき  
実際の位置関係等を一部  
デフォルメしています。

- 継体天皇** 史跡名：角宮神社あたり  
第26代継体天皇は、樟葉宮で即位され、筒城宮・弟国宮と移り、ようやく大和に入る事が出来ました。この弟国宮が角宮神社・乙訓寺あたりにあったと言われてます。
- 桓武天皇** 史跡名：長岡宮  
第50代桓武天皇は、平城京から『水陸ノ便ナルヲモッテ都ヲコノ邑ニ遷ス』と長岡京へ都を移されました。しかし都は再び平安京へ移され、長岡京は10年の短命の都で終わります。
- 藤原継縄・百済王明信** 史跡名：第九小学校あたり  
桓武天皇の最も信頼した貴族が藤原継縄・妻百済王明信です。その邸宅は史料に残る「長岡神足家」で、現在の第九小学校付近にあったとみられています。
- 弘法大師空海** 史跡名：乙訓寺・勝龍寺  
空海は、遣唐使に加えられ中国で密教を学び帰朝すると、乙訓寺別当として在任し最澄と会談しました。また勝龍寺を創建したり、楊谷寺の「独鈷水」を掘ったとも伝わります。
- 藤原基経**  
伊豆の古文書に、昔「長岡大臣もつね」と言う人が、「この風景は長岡の都とよく似ている」と地名を伊豆長岡に決めたと書かれています。藤原基経との関係は不明です。
- 菅原道真** 史跡名：長岡天満宮  
菅原道真は、長岡に所領があり太宰府に流された際、ここからお供をした三名が別れの時戴いた手彫りの木像をご神体として祀ったのが長岡天満宮の始まりと言われてます。
- 清少納言**  
平安時代、清少納言の書いた枕草子の中に「とも岡は笹の生いたるがをかききなり」と記されています。乙訓は昔から真竹や竹藪が有名でした。
- 法然上人** 史跡名：光明寺  
法然上人は、理想の教えを求めて行脚の途中粟生の庄屋宅で一夜の宿を借りました。浄土宗を開いた上人はまず粟生を訪ね「南無阿彌陀仏」の念仏の教えを最初に説かれました。
- 熊谷次郎直実** 史跡名：光明寺  
源氏の武将熊谷次郎直実は、一ノ谷の戦いで平氏の公達平致盛を討ち、無情を感じて仏門に入りました。蓮生法師と名乗った直実が、粟生に庵を建てたのが光明寺の創建です。
- 承明門院** 史跡名：土御門天皇金原御陵  
承久の乱に敗れた後鳥羽上皇の子・土御門天皇は阿波で亡くなりました。生母承明門院は遺骨を金原に移し、お堂を建てて祀られたと伝えられています。
- 細川頼春** 史跡名：勝龍寺城公園  
南北朝時代の武将細川頼春・師氏兄弟が、男山八幡まで進出した南朝方に対抗するために北朝の前線基地として、勝龍寺城を築いたと言われてます。
- 今井九左衛門** 史跡名：今井川  
室町時代、今里の百姓九左衛門は上里から川を掘り村の水不足を解決しましたが、ご法度破りで一家全員処刑されました。村人達はその川を今井川と呼び、大切に守っています。
- ガラシャ夫人** 史跡名：勝龍寺城公園  
明智光秀の三女玉は、勝龍寺城で細川忠興と婚儀を行います。父光秀の謀反を期に苦難の道を歩みます。キリスト教に帰依しガラシャの洗礼名を受け38歳で生涯を閉じました。
- 永井直清** 史跡名：長岡駅あたり  
江戸時代、永井直清は將軍家光より二万石を与えられ、山城国長岡藩主となりました。水害が多かった旧城（勝龍寺城）を避けて新しく西国街道に面して神足館をつくりました。
- 桂昌院** 史跡名：乙訓寺  
桂昌院は、家光の側室で五代将軍綱吉の生母です。「玉の輿」の語源となった女性とも言われています。仏教に造形深く、乙訓寺に寄進し徳川家の祈禱寺として再興されました。
- 中山修一先生** 史跡名：中山修一記念館  
それまで文献上にしか存在せず幻の都と呼ばれていた長岡京を、自らの費用と情熱でその遺跡を発掘し、境の都にされたのが、中山修一先生です。記念館は先生のご生家です。